令和元年 9月　12日

平成３１(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立新田小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには，学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があり，その上で，家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから，平成３１(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について，以下のとおり公表します。

また，調査結果は，学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので，調査結果の分析，指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1　目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し，児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに，各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより，本県児童生徒の学力向上に資する。

2　調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3　調査対象

小学校　第４学年，第５学年（国語，算数，理科，質問紙）

中学校　第２学年　　（国語，社会，数学，理科，英語，質問紙）

4　本校の実施状況

第４学年	国語	９２人	算数	９２人	理科	９２人
第５学年	国語	１０４人	算数	１０４人	理科	１０４人

5　留意事項

(1)　本調査は，対象となる学年，実施教科が限られていることや，必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから，本調査の結果については，児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。

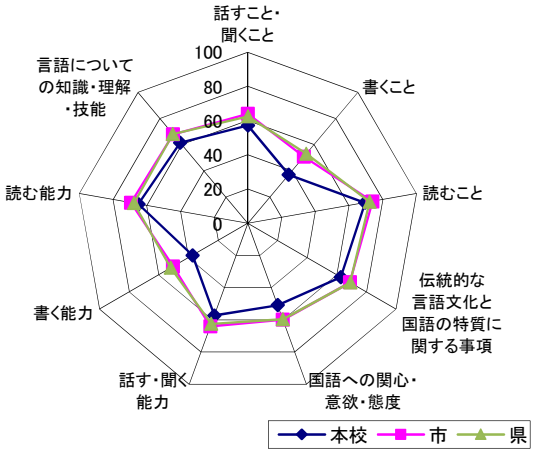
(2)　本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3)　平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため，「本年度の状況」，「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立新田小学校 第４学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと･聞くこと	57.2	64.0	62.5
	書くこと	37.2	50.9	53.1
	読むこと	69.6	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	62.8	68.9	69.1
観点	国語への関心･意欲･態度	50.8	59.9	59.7
	話す･聞く能力	57.2	64.0	62.5
	書く能力	37.2	50.4	52.0
	読む能力	64.9	69.3	67.6
	言語についての知識･理解･技能	61.5	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

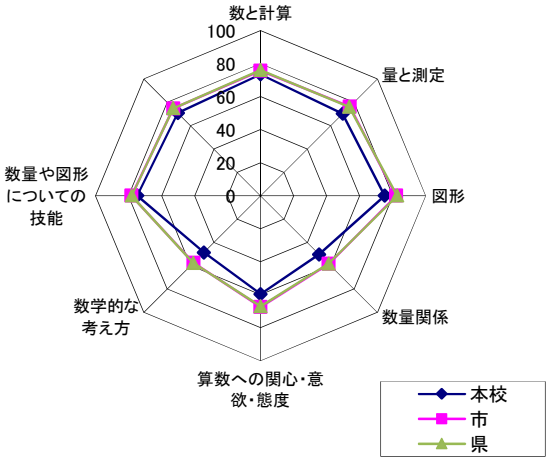
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	市や県の平均正答率より，下回っている。 ○大事なことを落とさないように聞き取ることについては，正答率が94．4%で，県の平均と同程度である。 ●話題に沿った意見と理由を考えて話すことについては，正答率が56．1%で，県の平均より13．8ポイント下回っている。	･学級活動，朝の会，帰りの会などにおいて，スピーチや話合い活動を積極的に取り入れ，発表する力を育てる。 ･授業の中で，グループでの話合いの場を適切に設定する。基本的な話型を常時掲示し，司会を中心に話題を確認しながら話合いを進めさせる。
書くこと	市や県の平均正答率より，下回っている。 ●指定された長さで文章を書くことについては，正答率が24．4%で，県の平均より19．7ポイント下回っている。 ●指定された構成に合わせて文章を書くことについては，正答率が，28．9%で，県の平均より18ポイント下回っている。	･教科書等の文章や模範となる書き方の例を参考にさせ，形式的な文章表現の仕方の習熟を図る。 ･他教科の学習でも書く活動を取り入れることで，いろいろな状況に応じた書き方ができるように指導をする。 ･「主語･述語」「書こうとすることの中心が明確になっているか」「理由や事例を挙げているか」などのポイントを意識した文を書かせ，読み直して言いたいことが伝わっているかどうか確認させるようにする。
読むこと	市や県の平均正答率より，下回っている。 ○文章問題において，説明文で内容を読み取ることについては，正答率が89．9%で，県の平均と同程度である。 ●物語の場面の様子を読み取ることについては，正答率が64．4%で，県の平均より6．6ポイント下回っている。 ●叙述を基に，登場人物の気持ちを想像して読むことについては，県の平均より5．4ポイント下回っている。	･問題の意図に沿った解答ができるように，様々な問題に触れる機会を増やす。 ･中心となる語や文に線を引いたり，大切な言葉をノートに書き出したりする活動を取り入れる。 ･物語文を読むときには，登場人物の心情がどこでどのように変化していくのかという視点で，登場人物の気持ちが表れている語や文を見付けるなど，要点や細かい点に注意しながら読む習慣をつけさせる。 ･作者や筆者が読み手に伝えたい中心となることを明確にし，それをもとに文章や段落構成を捉えさせる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	市や県の平均正答率より，下回っている。 ●漢字の読みについては，平均正答率は，県の平均より5ポイント程度下回っている。 ●ローマ字の表記については，県の平均より37．1ポイント下回っている。 ●文の構成（主語･述語）の理解については，県の平均より20．5ポイント下回っている。	･漢字の読み書きについては，ドリルを活用した朝の漢字練習やミニテスト等を継続して行い定着を図るとともに，既習漢字を日常生活の中で積極的に使えるようにする。 ･ローマ字の表記の仕方や指示語の使い方について，学習や生活の中で使う機会を意図的に設け定着を図る。 ･「主語･述語」を意識した読解と作文を授業に取り入れるようにする。

宇都宮市立新田小学校 第４学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	73.5	75.8	76.1
	量と測定	70.3	76.5	76.0
	図形	75.2	82.1	82.7
	数量関係	50.2	58.4	58.2
観点	算数への関心・意欲・態度	59.6	67.4	67.0
	数学的な考え方	48.6	57.5	57.7
	数量や図形についての技能	74.8	78.2	78.1
	数量や図形についての知識・理解	70.9	74.8	74.9



★指導の工夫と改善

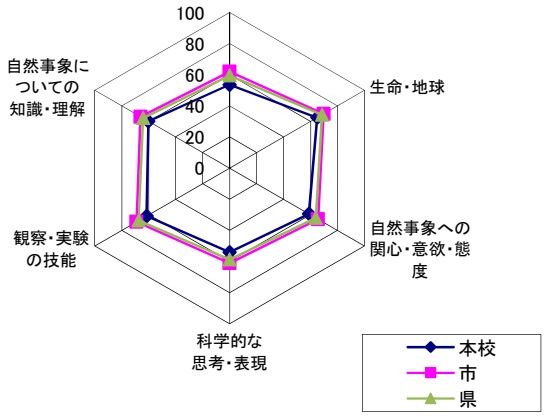
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	市や県の平均正答率より，下回っている。 ●数の相対的な大きさ，分数の数直線上での表し方，の理解については，市や県の平均正答率を6～7ポイント下回っている。 ●文章問題を解くための除法の式を選ぶ問題は，市や県の平均正答率を19ポイント以上下回っている。 ●かけ算の筆算に出てくる数の意味の理解については，校内正答率が25．6%である。 ●わり算のあまりを切り上げて処理する問題では，10ポイント程度下回っている。	・百万や千万の位までの大きな数の構成について，既習事項を基にした説明をさせる授業を取り入れ，難しくても自分で考える習慣をつけさせる。 ・分数の意味を言葉だけではなく，絵・図・数直線など様々な表現をさせる。 ・具体物やテープ図などを用いて「倍」という概念を視覚的に捉えさせた上で，「倍」の計算を使う文章問題づくりをさせる。 ・2桁×2桁のかけ算の意味をしっかりと理解させる必要がある。どの数が何倍になっているというイメージをもたせる。 ・問題の文章を読み取る力を身に付けさる。何を求めるのか，どの数を使って考えるのか，簡単な図などで考えを整理させる。 ・学習内容の定着を確かめる問題を用意し，授業の始めや終わりに挑戦させる。
量と測定	市や県の平均正答率より，下回っている。 ●時刻と時間の問題の正答率は，市や県の平均正答率を7ポイント程度下回っている。 ●「道のり」の意味については8ポイント以上，地図から読み取った2つの道のりについての長さの違いを答える問題については5ポイント以上，市や県の正答率を下回っている。 ●はかりの目盛りの読み方については，市や県の平均正答率を5～7ポイント下回っている。	・具体的な時計の図や線図に書き込ませ，時間の経過について視覚的に捉えさせた上で計算させる。 ・「道のり」と「距離」の意味の違いをしっかりと理解させる。 ・一人一人が実測する経験ができる場を設けるとともに，いろいろな目盛りのはかりに触れさせ，重さの表し方の多様性に慣れさせる。
図形	市や県の平均正答率より，下回っている。 ○円の直径についての理解や正三角形を作図する問題は正答率が8割を超えている。 ●球の半径から，球が2個入った箱の辺の長さを求める問題は市や県の平均正答率を14ポイント下回っている。	・平面の円の性質と立体の球の性質を結び付けて考えられるようにするなど，既習事項を生かして考えられるようにする。また，球の模型などを用いて，具体的な場面を提示し，児童が実感をもって捉えられるようにする。
数量関係	市や県の平均正答率より，下回っている。 ○□を使って，減法の式に表す問題は，平均正答率が8割を超えている。 ●棒グラフの目盛りの大きさと最も大きい値に着目して，棒グラフをかくことができない理由を説明する問題では，市や県の平均正答率を6ポイント下回っている。 ●棒グラフを見て，間違えた説明を選ぶ問題であるのに対し，正しい説明を選択する児童が全体の4割程度いた。	・棒グラフをいろいろなパターンの目盛りでかかせる。また，社会科などで資料として棒グラフが掲載されている場合はそこからどんなことが読み取れるのか考えさせるなど，実生活や学習に生かされているという意識をもって学習させる。 ・普段の学習の中で，文章で説明する問題に慣れるとともに，自分の言葉や文章で表現する活動を取り入れ，互いの考えを深め合う場や時間を確保する。

宇都宮市立市新田小学校 第４学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.6	61.9	59.4
	生命・地球	64.9	69.8	68.5
観点	自然事象への関心・意欲・態度	58.8	65.6	63.9
	科学的な思考・表現	54.0	61.0	58.8
	観察・実験の技能	61.6	69.0	67.4
	自然事象についての知識・理解	60.2	66.1	64.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	市や県の平均正答率より，下回っている。 ○「光の性質」設問では，鏡ではね返した光の進み方を理解している児童が8割程度である。 ●はね返した光を重ねたところの明るさを理解している児童の割合は5割程度，日光を集めた部分の大きさと明るさや温度の関係についての正答率は市や県と比べて5ポイント程度下回っている。 ●「磁石の性質」と「風やゴムの働き」の全設問においては県や市の平均正答率よりやや下回る程度だが，児童の正答率は3～6割程度である。 ●種類の異なる同体積の物体の正体を，情報を読み取って推測する設問では，正答率が38．9%である。	・どのような仮説を検証するためなのかを意識しながら実験に取り組ませる。また，グループごとに実験を行うとしても，結果については自分で記述させ，事象をスケッチしたものに自分の言葉で説明を加えさせる。さらに，学習のまとめの際，理科的用語を用いて記述させ，事象と用語の一体化を図る。 ・理科に限らず，どの教科においても問題文や選択肢の内容をしっかりと理解させ，何について答えるのかを明確にする。 ・学習のまとめとして，発展的問題に取り組ませ，得た知識を活かすことに慣れさせる。また，同様の事象が日常生活の中に見られたり，利用されたりしていることに気付かせることにより，学習意欲を高めていく。
生命・地球	市や県の平均正答率より，下回っている。 ○「ダンゴムシのすみか」「ダンゴムシの観察の仕方」「植物のからだのつくり」「昆虫のからだのつくり」を答える問題の正答率が8割をやや上回っている。 ●観察カードに書かれている内容を読み取り，分かることを答える問題では，市の平均と比較し，正答率が低い。他にも資料と問題を関連付けて答える問題に課題が見られる。 ●実際に飼育し，何度も観察を行ったが，モンシロチョウが成虫へと育つ期間を答える設問の正答率は51．1%と，市や県と比べて7～9ポイント下回っている。	・生き物を飼育する際に，事前に目的や観察の視点などを十分に与えることにより，理科的な視点で生き物の成長を捉えることのできる児童を育成する。 ・観察カードを書いた際には，「大きさ」や「色」，「形」などの視点で他の児童と比較する習慣を身に付けることにより，注意深く観察をしたり，文にまとめたりすることができる児童を育成する。 ・観察したことについて知識としてまとめた後，発展的問題に取り組ませることにより，応用し活用することに慣れさせる。

宇都宮市立新田小学校 第４学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

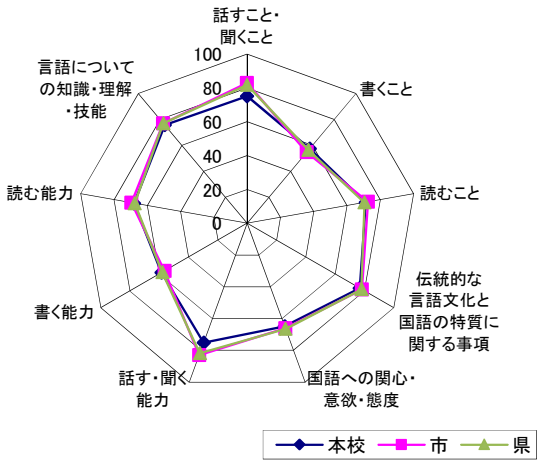
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「家で自分で計画を立てて勉強をしている」で「はい」と回答している児童の割合が38.9%で，県と比べると7ポイント，市と比べると10ポイント高い。
○「家で学校の宿題をしている」と回答した児童の割合が93.3%で，県と比べると8ポイント，市と比べると6ポイント高い。
○グループなどでの話合いに自分から進んで参加していると回答した児童が54.4%で，県と比べると12.8ポイント，市と比べると11.7ポイント高い。
○「学習して身に付けたことは将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」で「はい」と回答した児童が77.8%で，県と比べると8.3ポイント，市と比べると1.5ポイント高い。
●「授業の最後に学習をふりかえる活動をよく行っている」で「はい」と回答した児童が35．6%で，県と比べると約8ポイント，市と比べると約4ポイント低い。「授業で扱うノートには，学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている」で「はい」と回答した児童が40%で，県と比べると，19.4ポイント，市と比べると17.7ポイント低い。授業の中で必ず目標を示するとともに，授業ごとの振り返りやまとめの時間を十分に確保し，ノートに記録していくようにしたい。
●「疑問や不思議に思うことはわかるまで調べたい」で「はい」と回答した児童の割合が56.7%で，県と比べると9.7ポイント，市と比べると10.9ポイント低い。児童が強く興味関心をもてる教材を用意し，自分から調べたいという意欲を育てるよう努力する。
○「クラスの友達との間で，話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている」と回答した児童の割合が８２．２%で，県と比べると８．４ポイント，市と比べると６．２ポイント高い。また，「自分はクラスの人の役に立っていると思う」と回答した児童の割合は，６７．８%で，県と比べると９．２ポイント，市と比べると8ポイント高い。学び合いや教え合いを通し，児童の自己肯定感が高まったり，クラス内で，当番活動と自主的な係活動が全学年で存在することにより，多くの児童が認められる機会を得られたりしていることが役に立っているという気持ちを育んでいるのではないか。
●「学校のきまりを守っている」と回答した児童が８５．５%で，県と比べると7ポイント，市と比べると７．４ポイント低い。道徳の授業や学校行事を生かし，児童の規範意識を高めていく。
○「毎日，朝食を食べている」や「同じくらいの時こくにねている」，「早ね早起きを心がけている」と回答した児童の割合は，県や市とほぼ同程度である。すくすくカレンダーなどを活用し，さらに規則正しい生活を送れるよう指導していく。
○「自分にはよいところがあると思う」は，県と比べると３．８ポイント高い。また，「むずかしいことでも，失敗をおそれないでちょう戦している」は，県と比べると６．４ポイント高い。
●「先生は学習のことについてほめてくれる」と回答した児童が７５．５%で，県と比べると６．９ポイント，市と比べると１０ポイント低い。かがやきカードを活用するなどし，児童がほめられる機会を増やしていく。
○「家の人と学習について話をしている」と回答した児童の割合が87．8%で，県と比べると4.8ポイント，市と比べると1．6ポイント高い。
○「地域や社会で起こっている問題やできごとに関心がある」と回答した児童が74．４%で，県と比べると7.8ポイント，市と比べると4．6ポイント高い。
○「国語の学習は好きですか。」と回答した児童の割合が74．4%で，県と比べると.8．5ポイント，市と比べると5．9ポイント高い。
●「算数や理科の授業の内容はよく分かりますか。」とわかる回答した児童の割合が算数が８２．２%，理科が８４．４%で，県や市より6ポイント以上下回っている。今後は，算数的活動や観察や実験を多く行い，互いの考えを練り合う場面を取り入れることで，一人一人の理解を深めていきたい。
●「自然やうちゅうなど、科学の内容をあつかっているテレビを見たり本を読んだりするのは好きだ」と回答した児童の割合が７１．１%で，県と比べると.２．６ポイント，市と比べると４．３ポイント下回っている。図書館司書と連携を図り関連する本を用意し，学年全体で活用できるようにしていきたい。

宇都宮市立新田小学校 第５学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと･聞くこと	75.2	82.9	81.8
	書くこと	57.5	54.8	56.5
	読むこと	71.2	72.6	70.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.8	78.4	78.1
観点	国語への関心･意欲･態度	64.9	66.0	66.4
	話す･聞く能力	75.2	82.9	81.8
	書く能力	58.4	56.3	57.9
	読む能力	68.0	69.5	67.6
	言語についての知識･理解･技能	75.8	77.2	77.1



★指導の工夫と改善

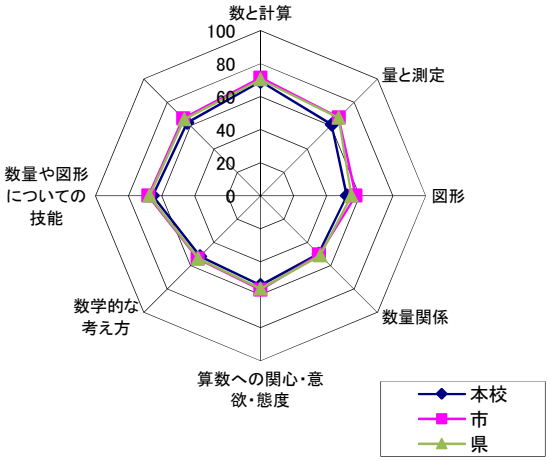
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	市や県の平均正答率より，下回っている。 ○話し方の工夫に気を付けて聞き取ることは，市平均正答率と同程度であった。 ●話の中心に気を付けて聞き取ることは10ポイント以上，司会の役割として参加者の発言の共通点をまとめることは6ポイント程度，県や市平均正答率を下回った。	･日常生活の中での，聞く姿勢や態度を継続的に指導する。 ･国語の授業において，問題を解決するための話合いの進め方についてモデルを提示して考えさせた後，相手の発言の意図を捉えながら自分の発言の意図を明確に伝えあう活動を充実させる。 ･特別活動や他教科においても話し合う目的を明確にし，相手の意見と自分の意見を比べながら聞いたり，話の展開に沿って自分の考えを述べたりする活動を積極的に行う。
書くこと	市や県の平均正答率よりやや上回っている。 ○指定された長さで文章を書くことは県より5．1ポイント，市より8．2ポイント上回っている。 ○書こうとする中心を明確にして文章を書くことが県より7．8ポイント，市より8．5ポイント上回っている。 ○ポスターを作ることについての設問の正答率は，県や市の平均正答率と同程度である。	･国語科に限らず，他教科においても授業の振り返りの時間を確保し，自分の考えを書く場を設けることを指導してきた。また，文字数やキーワードを入れるなど条件を付けて文章を書く活動を日頃から取り入れてきた。今後も，引き続き，指導していく。
読むこと	市や県の平均正答率と同程度である。 ○物語の読み取り問題では，登場人物の気持ちを読み取ることについての平均正答率は，県より5ポイント程度上回り，市とは同程度である。 ●説明的な文章の読み取りでは，段落のまとまりを理解して3分割することができず，正答率が33%である。 ●場面の様子を読み取ることについての平均正答率は，県より5．7ポイント，市より7．9ポイント下回っている。	･日頃から学習の隙間時間に読書を奨励してきたので，今後も読書活動を推進していく。 ･説明的文章の学習では，指示語が何を指示しているのかを考えながら各段落の内容を読み取るように指導する。また，接続語の意味を考えながら段落の構成を捉えるようにさせる。 ･基本となる「序論･本論･結論」の3つの構成の意味づけを丁寧に指導する。 ･場面の様子を読み取る設問については，人物の心情を慣用句で表すものであった。本校児童は例年，あまり回答率がよいとは言えない設問である。今後は，意図的に文学的作品に触れる機会を設けたり，慣用句を用いて心情を書くことを練習したりするなど，様々な表現に触れさせたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	市や県の平均正答率と同程度である。 ○4年配当漢字の読み･書きは，全体的に市平均正答率と同程度である。 ●指示語の使い方についての平均正答率は，県より6ポイント，市より6．1ポイント下回っている。	･前学年までの漢字の読み書きを，継続的に取り組ませ，習熟を図る。 ･国語･漢字辞典を授業や朝の学習で積極的に活用し，豊かな言語感覚を身に付けさせる。 ･日頃から，既習漢字を用いて書くことを意識させ，同音異字･類似語などの問題に取り組ませるようにする。 ･物語文や説明文を扱う授業において，主語･述語の関係に気を付けて読み取らせること，指示語が指し示していること，接続詞の意味を捉えることを丁寧に指導していく。

宇都宮市立新田小学校 第５学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	69.2	71.5	70.4
	量と測定	61.0	67.0	66.9
	図形	52.2	57.6	55.0
	数量関係	49.7	50.2	51.1
観点	算数への関心・意欲・態度	54.2	57.0	56.3
	数学的な考え方	51.9	53.8	53.6
	数量や図形についての技能	65.4	68.0	67.4
	数量や図形についての知識・理解	62.8	66.3	65.4



★指導の工夫と改善

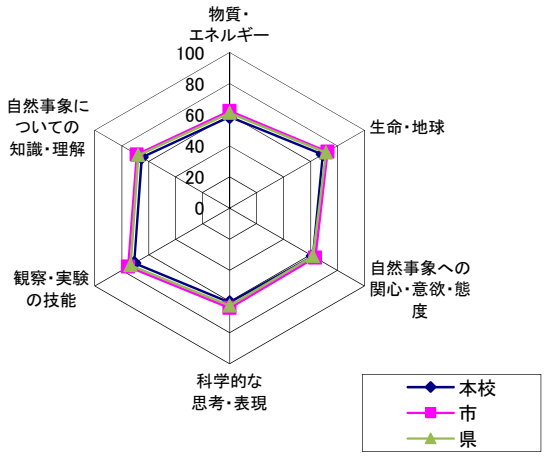
○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	県や市の平均正答率と同程度である。 ○数直線上に示された分数の読み取り方をよく理解しており，校内正答率が91．3%である。 ○除法の計算の仕方を工夫し，暗算する問題では，県平均正答率より5．5ポイント上回っている。これは，問題文の中に例題があり，その穴埋めをする形式であったため，答えやすかったと思われる。 ●「億と兆・概数の表し方」の設問では，上から2桁の概数にすることに課題が見られ，県平均正答率より9．6ポイント下回っている。 ●図を使って，倍とわり算の文章問題に合った式を選ぶ問題では，県平均正答率より10．8ポイント下回っている。「単位量当たりの大きさ」の理解が不十分であるため，問題に「何倍」と書いてあるだけで，かけ算の式を選んでしまった。	・4学年の夏休み前後に学習する「概数の表し方」では，「上から2桁の概数」にするには上から3桁目の数字に着目するというやり方を繰り返し丁寧に教えるようにする。 ・「もとになるもの」が何か分からず，図と式のどの部分が同じことを示しているのか見極められない児童もいる。「単位量当たりの大きさ」では，数式を言葉の式にする，図のどの部分が何を示しているか説明を書かせるなど丁寧な指導をしていく。
量と測定	県や市の平均正答率より6ポイント下回っている。 ○180°よりも大きい角の大きさを求める式，長方形の面積を求めること，5等分した長方形の1つの辺の長さを求めるなどの正答率は，県と同程度であった。 ●分度器の中に示された角の大きさのめもりを読む問題では，基準とする0°の線から読むべきところを，角を作っている線の延長上にあるめもりだけに注目して誤答しており，県の平均正答率より8．4ポイント下回っている。また，教科書の面積を選択する問題では，校内正答率は24．3%である。 ●複合図形の面積の求め方を選ぶ問題では，考え方を書いた文章と，複合図形，式の3つを上手に関係づけられなかった。	・低学年のうちから具体物や用具の操作をし，いろいろな種類の身近なものを計測したり，面積を求めたりする活動を十分かつ丁寧に行い，算数的な感覚を身に付けさせる。また，単位を伴う答えを選択する問題においては，数字のみ，単位のみを見て判断するのではなく，実際に教科書を思い浮かべ，「縦×横」という公式に当てはめるように指導していく。 ・友達との意見交流の場を設け，自分で説明することにより考えを整理したり，他者の考えを理解したり，いろいろなやり方を試したりすることを通して，柔軟な考え方ができるようにさせる。
図形	県の平均正答率とは同程度だが，市平均正答率より5．4ポイント下回っている。 ○四角形の対角線の性質，ひし形の作図についての校内正答率は，県平均正答率と同程度である。 ●直方体にある辺に垂直な辺を選ぶ問題では，県平均正答率より5．4ポイント下回っている。 ●地図の情報と平行四辺形の特徴を使って解く問題では，校内正答率が15．5%である。平行四辺形の特徴を表す様々な用語を理解していないため，それらをうまく組み合わせて文章を書くことができなかった。	・立体物に触れ，「垂直な辺」という概念を感覚的に捉えられるようにするとともに，平面図にはどのように表されるのかを具体物を使って丁寧に指導する。 ・図形を使って解く問題づくりをし，それを互いに解いてみる等，発展的に生かす問題に慣れさせる必要がある。
数量関係	県や市の平均正答率と同程度であるが，校内正答率が約5割である。 ○二次元表の読み方を理解し，示されたものが表のどこに該当するのかを答える問題では，県平均正答率を8．2ポイント上回っている。問題の内容が，自分たちの生活の中で経験したり，出会ったりする出来事であったので，取り組みやすかったと思われる。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題では，校内平均正答率30．1%である。 ●分配法則など，計算のきまりの習得が十分ではない。	・今後も，身近にあるものや出来事の中で，算数の基礎・基本を使っていく。 ・具体物を操作して変わり方を調べる，図にかいて考えるなど，視覚的に理解させたり，様々な方法を授業に取り入れる。 ・低学年のうちから，工夫して計算をすることの意味や便利さを味わわせる必要がある。分配法則，交換法則，共通の数でくくる等についての問題には，まず簡単な数字を当てはめて計算し，法則が成り立つことを確認させた上で，様々なパターンの練習問題に取り組ませる。

宇都宮市立新田小学校 第５学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県，市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	58.6	62.4	61.1
	生命・地球	69.0	72.5	71.4
観点	自然事象への関心・意欲・態度	61.7	63.4	61.7
	科学的な思考・表現	60.5	64.1	62.6
	観察・実験の技能	70.7	75.2	73.5
	自然事象についての知識・理解	65.3	68.8	67.8



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	県や市の平均正答率より下回っている。 ○「水を温めると体積が大きくなること」の設問では，正答率が県の平均よりも6.4ポイント上回っている。 ○「水が氷になるときの体積の変化について説明する」設問では，正答率が県の平均よりも5ポイント上回っており，実際に実験したことが理解につながっていると考えられる。 ●「電流のはたらき」の設問では，電流についての知識を問う問題や，電流を強くする乾電池のつなぎ方を説明する問題の正答率が県や市の平均よりも10ポイント近く下回っており，観察・実験への意欲は高いものの，考察から知識に結び付いていないと考えられる。	・金属の温まり方や電流の流れなど，直接目に見えない事象をイメージ図等を用いながら，可視化し理解できるようにする。 ・実験結果を理科用語を用いながら，自分の言葉でまとめる活動を丁寧に行う。 ・国語の学習と連携を図りながら，観察や実験で分かったことをまとめたり，分かりやすく表現したりする力が身に付くようにする。
生命・地球	県や市の平均正答率を下回っている。 ○「1年間の植物の成長」に関する設問では，校内正答率が8割を超えており，身近な植物についての関心の高さがうかがえる。 ●「1年間の動物の様子」に関する設問では，正答率が市や県の平均よりも9ポイント以上下回っている。昆虫の成長と季節との関係が結び付いていないと思われる。 ●「動物の体のつくりと運動」に関する設問では，正答率が市や県の平均よりも9ポイント近く下回っている。動物の体の動き方と骨のつくりを関連付けて理解していないと思われる。	・季節や生き物同士の関連を図り，知識を高めるために，季節ごとの観察を行い，1年間の成長を季節と結び付けて考えられるようにする。 ・映像資料や模型・絵や図などを活用し，実際に見られない動物の体の中のつくりや動きを，言葉だけでなく可視化することで知識の定着を図る。

宇都宮市立新田小学校 第５学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの　●課題が見られるもの

○「家で，学校の宿題をしている」と回答した児童の割合は99%，「学習して身に付けたことは，しょう来の仕事や生活の中で役に立つと思う。」と回答した児童の割合は96．1%と，課題に対し真面目に取り組んでいる。
●「授業では，クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。」と回答した児童の割合は84．6%で，市・県の平均とほぼ同程度である。しかし，「授業では，自分の考えを発表する機会があたえられている」と回答した児童の割合は69%と，県の割合より14．3ポイント下回っている。今後は，授業の中で，自分の意見を友達と交流する場を設ける等，工夫をしていきたい。
●「クラスの友達との間で，話し合う活動を通して自分の考えを深めたり，広げたりすることができる」と回答した児童の割合が70．9%であるのに対し，「授業を集中して受けている」「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことが難しい」と回答した児童の割合は5～6割程度である。今後も，「分かる・できる授業」を心掛けていくとともに，自分の考えをまとめる時間も大切に扱いたい。
○「友達と話し合うとき，友達の話や意見を最後まで聞くことができる」と回答した児童の割合は96．1%と高い。
●「クラスは発言しやすい雰囲気である」と回答した児童の割合が68．9%である。グループ学習での話合いの様子では，友達の発言を静かに聞くこともできていることから，大勢の前で発表することに苦手意識をもたないよう何でも話しやすい雰囲気づくりに努めたい。
○「先生は学習についてほめてくれる」と回答した児童の割合は84．5%である。今後も，一人一人のよさを大切にし，児童の自己肯定感を高められるようにする。
○「学校のきまりを守っている」と回答した児童の割合は96．1%と，規範意識が高い。
●「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる」と回答した児童の割合は，県や市の平均肯定回答率がどちらも9割を超えているのに対し，本校は85．4%とやや下回る。今後，さらに学校や学級での自己有用感を感じられるように，当番や係活動，委員会活動，学校行事などでの活躍にも声を掛けたい。
●「早寝，早起きを心掛けている」と回答した児童の割合は，74．7%である。この割合から計算すると，早寝早起きをしてない児童がクラスに8～9人程度いることになる。学級活動などで指導するだではなく，保護者との連携しながら基礎的な生活習慣の改善を図っていきたい。
●平日，テレビ，DVDなどを視聴する時間は，3～4時間くらいが23．3%と最も多く，4時間以上は21．4%，2～3時間くらいが19．4%であった。また，携帯電話やスマホを持っていない児童の割合は45．6%で県や市の平均回答率と同程度である。こちらは「宮っ子ルール」を守って使用していると思われるが，子どもたちはラインの話をよくしている。メディアの利用の仕方や影響などについて，再指導の必要がある。
○「ものごとを最後までやり遂げて，うれしかったことがある」「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童の割合は9割程度で，前向きな気持ちで生活していると言える。今後も，前向きに生活できるよう，引き続き家庭にもご協力いただく。
○「授業の内容はよく分かりますか」の質問において，理科では肯定回答の割合が94%と高い。国語・算数・社会においても肯定割合は高く，社会においては県より4ポイント高い。授業に対する理解の高さがうかがえる。
●「自分のよさを人のために生かしたいと思う」と回答した児童は51.5%で県より8.3ポイント低い。今後は，あらゆる学校生活の中で，自己有用感を実感させる機会を意識的に設ける。

宇都宮市立新田小学校（第４・５学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で，重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「朝の学習の時間」の有効活用	・「宮っ子ステップアップシート」を活用し，算数の基礎的・基本的な知識・技能の習熟を図っている。 ・国語では，「言語の知識・理解・技能」の向上を目指し，文法・指示語・慣用句・国語および漢字辞典の使い方などのプリントに取り組んでいる。 ・担任以外の教職員が支援に入り，TT体制で取り組んでいる。	○「数と計算」「数量関係」の正答率は，県や市の平均正答率とほぼ同程度である。（小5） ○文章問題において，説明文で内容を読み取るについては，正答率が89．9%で，県の平均と同程度である。（小4）
「本時の振り返り」や「学習のまとめ」の工夫	・授業の振り返りを記述式にし，自分の考えを短文でまとめられるよう指導している。 ・学習のまとめをする際，キーワードや字数などを指定し，条件付きでまとめるよう指導している。	○指定された長さで文章を書くことは県より5．1ポイント，市より8．2ポイント上回った。（小5）

★学校全体で，今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
3教科とも全体的に低い傾向にある。 ・国語科は，領域「話すこと・聞くこと」「書くこと」に課題が見られる。 ・算数科は，「数学的な考え方」に課題が見られる。 ・理科は，「科学的な思考・表現」に課題が見られる。	・授業改善（既習事項を用いた思考の場を意図的に取り入れる等） ・基礎的基本的な知識・技能を習得させるための「朝の学習の時間」の有効活用	・既習事項を用いて思考を深めることを目的とした小グループでの話合い活動の場を設定する。 ・引き続き，キーワードや字数などを指定する等条件付きで振り返りや学習のまとめを書かせる。 ・「朝の学習の時間」において，間違えた問題が確実にできるようになるまで，根気強く取り組ませる。 ・低中学年では，絵・図・テープ図・具体物で視覚化，感覚的に捉えさせ，言葉や式など様々な方法で表現させる活動を取り入れる。高学年では，既習事項を用いて考える活動を取り入れる。 ・予想や仮説をもち，意図をもって観察や実験を行わせる。